

式 辞

今、世界は新型コロナウイルス問題の対応に追われ、本校においても例年とは違う形の卒業式となりました。このような中においても、先生方は、君たちのために、できる範囲で、心のこもった卒業式を行いたいと考え、準備を進めてきました。

改めて、卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

私が君たちと一緒に過ごしたのは、2年間。今、この2年間を振り返ってみると、君たちが色々な壁にぶつかりながらも、人として成長し、そして、春中を立派に支える姿になったことが思い出されます。

特に、3年生になってからの君たちの成長は素晴らしかった。

時代は平成から令和に変わり、10連休明けの修学旅行かつ朝6時集合、さらに朝は、あいにくの雨。先生方は、全員がそろそろののだろうかとはハラハラドキドキしていました。しかし、その後は天気も良く、函館の夜景もきれいにすることができ、「ハートが見えた！！」と歓声を上げていた人もいました。

私を含めて、ちょっとした失敗はありましたが、君たちは、自分たちで考え、仲間を思いやり、笑顔で行動していました。ある先生は、「宿泊研修の時と比べるとずいぶん成長したなあ」としみじみ語っていました。

最後の体育祭、大縄跳び、全員リレー、新しく加わった「大玉送り」などすべての競技において、全力で取り組む君たちの姿は、すべての人に感動を与えました。特に、全員リレーの時、最後の選手がゴールするまで、会場のみんなが大きな声で応援する姿は、今でも私の目に焼き付いています。

しかし、私は、準備や片付け、放送、接待など係の仕事をしている姿を見ていた地域の方々や、先生方が、「春中生、素晴らしいですね！」「体育祭に向かう姿勢が今までで一番良かった！」と言っていたことが何よりうれしかった。

目に見える成果や成長は、目に見えないところで支えられています。

それは、部活動でも同じです。「練習が辛い」、「先生が厳しい」、「友達とけんかをした」、「なかなかうまくならない」、「なかなか勝てない」、君たちはそれぞれが色々な悩みや思いを抱えながら、諦めることなく、もがき、努力を続けてきました。結果として、「やっと勝った」、「仲間と心が通じあえた」、「最後までやりきった」など達成感や充実感を味わうことができ、目に見える結果や成果につながりました。

「七転び八起き」というテーマのもと、君たちの底力を見せたやどりぎ祭。合唱コンクールでは、「さすが、3年生！」という合唱を、そして演劇では、「fantasy world of SKD」を披露しました。

その中で私は、2つのセリフに鳥肌が立ちました。

「あなたがたは、素晴らしい知恵と勇気と優しさをもっている。そして仲間がいる。

そして、劇の最後には、「**未来はだれかに教えてもらうものではなく、自分自身の手で見つけていくもの**」と閉めくくられていました。

これは、私たちが君たちに伝えたかったメッセージです。

みんなで力を合わせ、1つの劇を創り上げた経験は、すべて君たちの財産です。

君たちにとって目に見えない力として君たちを支えてくれます。

さあ、私の大好きな君たちに、最後のお話をします。

これから10年、20年、時代は大きく変わります。また、現在、我々が経験している新型コロナウイルスのような全世界的な問題に直面するかもしれません。

しかし、そんな時代を素敵にたくましく生き抜くためには、しなやかさがが必要です。

「根さえしっかりしていれば 枝葉はどんなにゆれたっていいじゃないか 風にまかせておけばいい」相田みつをさんの詩です。「やるべきこと、やらなければいけないことをしっかりやっていれば、あとはどんと構えていよう。なるようになるさ!」ということです。

これからの人生、右に大きく曲がったり、左に大きく傾いたりしながらも、竹のようにしなやかに生きていくことが大切です。頑張りすぎないようにしようね!

明けない夜はありません。

これからの時代は君たちのものです。ぜひ、大空に向かって羽ばたいてください。

卒業生の皆さんが、夢と希望をもって、輝かしい未来を切り開くことを願い、式辞といたします。

令和2年3月13日 旭川市立春光台中学校 校長 千葉雅樹